



第15号

「PMFを応援する会」会報

協奏

2016年3月14日

「PMF のつづける、つなぐ、つぎへ」

札幌市長 秋元 克弘

PMFを応援する会の皆さま、いつも温かいご支援とご協力をありがとうございます。札幌市長の秋元克弘です。

さて、PMFは今年27回目を迎えます。芸術監督ワレリー・ゲルギエフ2年目となる今回は、昨年よりも充実した教育体制を整え、迎え入れるアカデミー生の数も増やし、多彩な楽曲を皆様にお届けいたします。ぜひ、さまざまな演奏会場に足をお運びいただき、今年もPMFの音色を楽しんでいただければと思います。

四半世紀を超える歴史の中で、PMFは多くの素晴らしい音楽家を世界に送り出してきました。札幌の街に世界中から若い才能が集まり、学び、巣立ってゆく。そして、彼らがPMFに帰って次の世代を育成する、このような素晴らしいサイクルを生み出しているこの音楽祭を、私たちは札幌の大切な財産として、ますます発展させていかなければなりません。

この先PMFが、さらに何十年もの歴史を積み重ねた未来を想像してみてください。その価値は、札幌の街の魅力を高めるにとどまらず、世界的な文化資産となっているはずで

「いつかPMFに！」音楽を学ぶ世界中の若者がそう夢見るPMFをともに作り上げていきましょう。

PMFを応援する会の皆さまをはじめ、様々な側面からPMFを支えてくださる市民、音楽ファンの皆さまに、あらためて心からの感謝を申し上げます。

今年のPMF、そして未来のPMFを末永く応援し、ともに育ててくださいますようお願い申し上げます。



——— ご 挨拶 ——— 「PMFを応援する会」会長代行 鈴木敏明

昨年までにPMFに参加した若者は累計で3211名(74カ国)になりました。

音楽に「献身と情熱」を捧げたPMF札幌の夏はかけがえのない思い出として心に宿っていることと思います。第30回という大きな通過点を目前にしたこの時、札幌から羽ばたいた3211個の光は世界中で輝いています。世界のどこかで催される演奏会。PMFで出逢い更に成長していた「音楽家」に、あなたが花束を手渡している姿。想像するだけで幸福な想いで満たされると思います。

皆さまのご支援はPMFの光を大きく大きくしてゆきます。どうぞお力添えいただけますようお願い申し上げます。すでに弥生3月ですが本年も重ねて宜しく願い申し上げます。

まちの文化としてのPMFを考える

会場：パークホテル ザ・テラスルーム

日時：2016.2.23(水)

会場のザ・テラスルームから見える庭園と雪の舞いは絵のようで、美しいヴィオリンの音色とPMFに寄せる熱心なトークのひとつときは素晴らしく、瞬く間にすぎました。

プログラム

- ごあいさつ PMFを応援する会 会長代行 鈴木 敏明
- ごあいさつ PMF組織委員会理事長 上田 文雄 氏
- ヴァイオリン演奏 太田 ゆみえ (PMF2014参加)
 - ♪ なつかしい土地の思い出よりメロディー (チャイコフスキー)
 - ♪ スケルツォ・タランテラ (ヴェニヤフスキー) ピアノ伴奏 北濱 佑麻
- わいわいトーク 《ケーキ&コーヒー or ティーをいただきながら》
- ヴァイオリン演奏 大平 まゆみ 富田 麻衣子 (PMF2006、07参加)
 - ♪ G線上のアリア (バッハ) ♪ 鏡 (モーツァルト)
 - ♪ デュエット (バルトーク)他
- お知らせなど(素敵なプレゼント!)



カフェ・サロンで演奏して♪ 太田 ゆみえ (PMF2014終了生)

今回はカフェ・サロンに参加させていただき、皆様のPMFに対する想いや考えを直接お聞きすることができ、とても貴重な経験になりました。お呼びいただきましてありがとうございます。お話をいただいたときから選曲に悩みましたがチャイコフスキーの懐かしい土地の思い出からの'メロディー'はいつも弾く度に北海道で過ごした小さい頃の事を思い出して自然と暖かい気持ちになれるので今回ぴったりだと思い決めました。'スケルツォタランテラ'の方は双子の妹で、今回、都合があえば一緒に演奏したかった太田かなえからの提案で決めました。とても技巧的な曲でしかも当日は目の前に大平まゆみさんがいらしたのでドキドキしましたが、ピアノ伴奏をしていただいた大学の先輩の北濱佑麻さんと楽しく演奏できたと思います。

そのあとの「わいわいトーク」では様々な意見を交え、皆さんがPMFをより良くしたいと真剣に考えている事を知り、応援する会が今までどれだけPMFのために尽力されているのかを考えさせられました。今回のテーマ「まちの文化としてのPMFを考える」私たちにとっては毎年楽しいPMFですが、今まで興味がなかった方やクラシック音楽に興味がない方にも知っていただくことを皆さんと考えたり人の考えを聞いたりすることはとてもいい経験でした。

私は現在、京都に住んで関西で活動していますが、大学に行くまで札幌に住んでいました。家が芸術の森近くにある事や、両親が音楽好きな事もあり、私の初PMFはなんと一歳！夏にはPMFを聴きに行くことが当たり前であり、憧れでもありました。そして2014年にアカデミー生になり本当に楽しく充実した一ヶ月を過ごし、最高の仲間もでき、ますますPMFが好きになりました。今でも大切な思い出です。

そんなPMFがこれからもますます札幌の市民に愛され、世界の若い音楽家が憧れる音楽祭になりますことを心から願っております。



わいわいトークDEわいわい!

「まちの文化としてのPMFを考える」

- ・ 札幌の夏の風物詩と言われるPMF、わたしにとってのPMFは？
 - ・ PMFのよさと課題は？
 - ・ PMFのこれからを想う...
 - ・ PMFに市民、ファンとしてできること、してみたいこと...
- などをお茶とケーキをお伴に1時間ほどフリートークをしました。



- ・ 市民にもっと身近なPMFに
- ・ 1か月のPMFから1年間のPMFへ
- ・ アカデミー生とのふれあい
- ・ 多忙なアカデミー生へのフォロー

- ・ 開かれた窓口=対話の窓口を!
- ・ 目的別資金の集め方と活用の工夫を
- ・ 会場に空席をつくらない
- ・ 縦から横へ、緩やかにつなぐマネジメント

タテからヨコへのつながり

札幌の街で誇れる
文化・財産=PMF

世界に発信する原動力・観光資源

- ・ 期間中いつでも、どこでもPMF(大通り・赤レンガ・いろいろな地域で・大型スクリーンでリアルタイムに...)
- ・ ホームステイで日本の生活体験を
- ・ 子どもを演奏会に積極的に呼び込む
- ・ 市内の学校との交流を

- ・ ホストオケとしての札幌
- ・ 修了生のコンサート
- ・ メディアの活用工夫を





恒例になりました秋のニドムツアー

バーンスタインが滞在したホテルニドムを訪ね、

バーンスタインのサインが残るピアノの音色を楽しみ、

紅葉がはじまりかけた庭を歩きながらバーンスタインの思い出に浸りました。



「音楽とともにすす秋のニドムに参加して」

PMFを応援する会からの案内を受け、母とニドムツアーへ参加しました。

当日、外気はひんやりしていましたが、よく晴れて、窓外の黄葉を1時間ほど楽しみながら、バスでニドムへ運ばれていきました。

ニドムに到着した私達は、レナード・バーンスタイン氏が宿泊していたロッジへ移動し、アンサンブルグループ奏楽(そら)さんの素敵な音楽を楽しみました。奏でてくださった楽曲は、耳にする機会の多いクラシックやミュージカルナンバー(もちろんバーンスタイン氏の「ウエストサイドストーリー」も!), はじめて聴かせていただく曲とバラエティに富んで、それぞれ愉しむことができました。会場の部屋の中には暖炉が設けてあり、木が燃えてパチパチとはぜる音は私たちの心をあたため、ゆるませて、音楽と絶妙なハーモニーを奏で、とても味わい深い時間になりました。

演奏会中、バーンスタイン氏のことや、演者の方々の音楽活動の内容(PMFとの関わりも)、PMFにまつわるお話を聞きました。私は人のお話を伺うことが大好きなので

札幌市 梶浦 美幸

すが、今回得たもので一番感銘を受けたことは、PMFにはウィーン・フィルが深く関わっているということ! ウィーン・フィルは本来自国の楽団の内でのみ若手の指導を行うことを徹底しているが、PMFの会期のみ日本へ訪れて、アーティストの育成にあたっているというのです。PMFが始まってから今年に至るまでその交流が続いていることが、すこし奇跡的な出来事のように感じました。

音楽の余韻をほんわりまといつつ私たちはホテルへ移動し、大変美味しいランチをいただき!そして、つかのま静かな自然のなかの道を散策して、満足の内に帰路へ着きました。

前述に“奇跡的な”という言葉を配しましたが、“奇跡”は人が起こしていくものですね!

できることの重なりが“奇跡”になっているのだと私は思っています。

私自身はこれからも毎年PMFを目撃することで、さらなる奇跡に連なって行こうと思います。今回の素敵なツアーとの出会いに感謝しています。



NPO法人奏楽理事長 岩崎 弘昌

♪ 去る2015年10月22日、苫小牧市・ホテルニドム内の「鷹の巣コテージ」にて、アンサンブルグループ奏楽(そら)の3名にて演奏をさせていただきました。

奏楽は、若い演奏家が様々な演奏活動を通して、社会性を養い、演奏家として成長していくことを目的に、2008年の結成以来、道内外の様々な場所で演奏活動を行っています。

今回、「PMFを応援する会」の皆様とのご縁をいただき、演奏を聴いていただくことができました。まずそのことに、感謝申し上げたいと思います。

♪ 当日は、気温は低かったものの晴天に恵まれ、音楽を楽しんでいただくには絶好の日和でした。奏楽として鷹の巣コテージにお邪魔するのは今回が初めてでしたが、室内のあたたかくも幻想的な雰囲気、また響きの豊かさに感動いたしました。さらに特筆すべきは、バーンスタインが愛用していたピアノを使わせて頂けたことです。バーンスタインは、私自身にとっても特別な作曲家であり、第1回PMFでの姿を、今でも鮮明に覚えています。ピアノに書かれたサインも目にする事ができ、まるでピアノの中にバーンスタインの魂が宿っているようにも感じられました。

♪ 演奏会では、ソプラノ川島沙耶(PMFチェンバープレーヤー)、ピアノ前田朋子と共に、クラシッ

クやミュージカル作品、そしてバーンスタイン作品も含め10曲近くを演奏させていただきましたが、日頃より音楽に造詣が深い「PMFを応援する会」の皆様に聴いていただけたことは、奏楽の若いメンバーにとっても大変貴重な機会になったことと思います。また演奏の合間には、東日本大震災の被災地への訪問演奏活動のことなど、奏楽の主要な活動についてもご紹介させていただきました。奏楽では、これからも継続的に、被災地への演奏訪問、そして道内でもなかなか生の音楽を聴くことのできない地域の方々(特に子供たち)に聴いていただく活動を積極的に行っていきたいと考えます。

♪ 演奏会後のお食事の席にも、お邪魔させて頂き、会員の皆様と楽しい交流の機会を持たせて頂いたことも、思い出に残っております。また皆様とご一緒出来る機会があれば嬉しく思っております。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。



苫小牧PMFボランティア友の会 中島 禮子

PMFを応援する会にお誘いいただき、それも会場がニドムとのことで久しぶりのニドムに年甲斐もなく心躍らせて参加致しました。孫たちが幼い頃、年越しと新年を優雅な気分を迎えたり、クラス会をしたりと鷹の巣コテージは思い出一杯の処です。

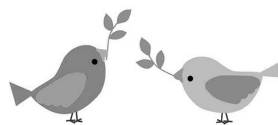
それはとも角として、敬愛するバーンスタインが使ったピアノの音色と共に「奏楽(そら)」さん達の気取らないアットホームな雰囲気でのコンサート素的でしたネ。また機会

があったら駆けつけます。昼食の際も同席の方達が気さくで話が弾み食後はホッとした秋日和の中紅葉を楽しみ、再会することを約束してお別れしました。私も傘寿を迎え、北海道の宝である「PMFバーンスタインの想いを未来へ」の理念に共感し苫小牧PMFボランティア友の会の一員として微力ながら応援する事を私自身のエネルギーに替え、2016年のコンサートを楽しみに健康寿命を延ばしたいと思います。 倅せな一日をありがとうございました。

連載企画 「私とPMF」(第6回)

野外コンサートのこと…

柏市 榊原 綾子



美しい形状の真白い屋根に、カラスが一羽とまっている。下をうかがうように少し首をかしげている様子が見える。会場を取り巻く木々の梢からも、小鳥のさえずりが聴こえる。まるで流れる音楽の調べに呼応するように。

札幌の夏、芸術の森での一コマだ。野外ステージで開催されるコンサートは、森の自然と共にあることで、その音楽の持つ美しさをさらに増し、私たちを魅了する。特に、ピクニックコンサートで、徐々に日が傾き、空が夕刻の景色に染められていく中で、自然と芸術の融合をも体感しながら聴くシンフォニーは圧巻といえる。PMF野外コンサートには、こうした自然の中でのコンサートであるからこそ、他では得られない魅力がある。

アカデミー生にとっても、こうした自然の中で学び、感じることは貴重な体験であり、大きな糧となるのだろう。

そして、もう一つ。私は、PMFが始まった頃まだ幼かった子どもたちを連れて、ピクニックコンサートに足を運ぶようになった。子どもが生まれてからなかなかクラシックのコンサートに行けなくなっていた私にとっては唯一ともいえる楽しみの場所となった。子どもたちは、芝生に寝ころび、お弁当を食べ、お昼寝をしながらいたものだった。そうした気を張らない状態で、自然に音楽が子どもたちの中に入っていったように思う。クラシック音楽というと「堅苦しい」と感じる

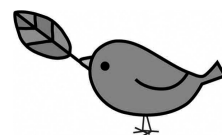
人も多い。コンサートホールでのクラシックコンサートはさらに敷居が高いという。物音を立てずに、静かに音楽を聴くことは、幼い子どもたちには少し難しい面もある。けれども、本当は幼い頃から音楽に限らず本物の芸術文化に触れること、そして生きたもの(生の演奏)に触れることは、豊かな感性を育てること、柔軟な心や思考を育てるためにとっても有効で、大切なことだ。そしてできることなら、そのことをねらって無理矢理にはではなく、自然に触れること、気がついたら心に響いていたというのが望ましい。子どもたちの感性は、とても自由で柔らかな。PMFは、キタラだけでなく、様々な場所で人々と共にある音楽を提供してくれる。そして子どもたちに音楽の素晴らしさ、その持つ不思議な力から有形無形の恩恵を与えていることは、教育音楽祭としてのPMFがもたらす大きな副産物の一つといえるのかもしれない。

因みに、我が家の子どもたちは、やがてキタラでもコンサートを楽しむようになった。今は亡き竹津宜男さんが以前にされていたPMFO*のコンサートの前のプレトークを楽しみにしていたことを思い出す。

今も、多くの子どもを連れて家族が野外コンサートの芝生にくつろぐ姿が見られる。同窓会を兼ねてピクニックコンサートに集まるという退職された方たちのグループがある。

PMF期間中、街は音楽にあふれ、人々の傍らには自然に音楽がある。

*PMFO: PMF オーケストラ



PMFものがたり —はじまりのころ—

著者: 竹津宜男

販売中 500円

PMFが札幌にやってきた
はじまりのころのものがたり・・・
天からの大きな贈り物でしたが
突然のことで、何から準備したらいいのか！
戸惑いながらの日々が伝わってきます！

竹津宜男遺稿集
PMFものがたり
—はじまりのころ—



遺稿集「PMFものがたり」お求め方法

12篇の遺稿が収められています。

- カフェディレニー店頭で販売しています
- 募金払い込みの時に募金額に本代と送料を加えて払い込みいただくと郵送いたします。
通信欄に希望数をご記入ください。

* 1冊: 640円、2冊: 1,205円、3冊: 1,750円



2月のカフェ・サロンをご案内した絵はがきの中央に

For Suda-San with many Thanks

1990 Lenny Bernstein

と書かれています。

レニーから贈られたサイン入りポートレートのことを伝えていただきたくて、闘病中の須田さんに原稿の依頼をしていました。

「1990年頃のこと、出会った人々のことを…是非、書きたい」とお返事をくださいましたが、残念ながら2月16日に旅立ってしまいました。

Suda-SanはPMF1990の成功を支えたお一人、また「応援する会」発足からの仲間であり、副会長として力を注いでいただきました。2014年8月に開催したカフェ・サロン、トークに参加された須田さんの情熱あふれる声がレコーダーに残されていました。当時、(財)芸術の森企画課長として関わった様子をお届けします。(協奏11号未掲載分)

PMFはじまりの頃のお話

須田俊彦談 (2014年8月3日)

PMF開会式1990.6.26は忘れられません。芸森から真駒内の石山陸橋まで、国道2km位がなんと交通渋滞になったのです。これは予想以上のパニックであわてて芸森の正面入り口に跳んでゆき、私たちが交通整理員になって来場者の車整理をしました。警察にも、警備会社にも事前通知をしていませんでしたので。時々あの場所に行きますと今でも思い出します。

外国人対応ですけど、'90年春から次々と世界から視察がやってきました。英会話ができる職員も入れ、4人のプロジェクトチームを立ち上げ、上司にはこれまでの日常の業務は一切できません、これからはこのプロジェクトの判断で進めるので、文句は言わないで任せてくださいと言いました。ニューヨークからバーンスタインの長年のマネージャー、ハリー・クラウトなど音楽関係者が来られるとダイレクトの話です。オープンが目の前に迫ってスタッフと無我夢中で仕事をしましたね！寝る暇もないくらいでしたね……。昼間英会話できないのに、夜、夢の中に英会話が出てくるのです(笑)。夢で練習していたんですね。

現場にいましたからアカデミー生と毎日顔を合わせ親しくなりましたね。彼らは疲れているようで昼間は管理センター

ロビーの長椅子で昼寝をしていました。言葉がわからなくても若い人も親しくなりましたし、外国や本州のスタッフからは日本食を食べたいけれど、どこかありますか？とか、休日温泉に行きたいが教えてといろいろありました。こちらは何でもいい・・・聞いてあげて！と、インフォメーションもみんなでしたね。

いよいよPMF開会式を迎え、レナード・バーンスタインの挨拶がありました。あの時の感動・感激、忘れませんね。スピーチがノー原稿で、説得力のある洪い声での魅力あるトーク、「ああ！この人はすごい人なんだ」「これがまさしく国際教育音楽祭なんだ」と胸にジーンとききましたね。準備の疲れも抜けた感じ。ヨシッ！やってやるという気持ちでたかまりました。

良い経験をさせてもらいました。来るもの拒まず何でも一生懸命やろうということしかできず、芸森の若いスタッフにも恵まれ、ついてきてくれました。それだから大きなミスもなく対応できたのかなと思います。

以上、はじまりの頃のパニック対応と感想です。

リズムカルに語っていた光景とともにPMF受け入れに心をこめて対応していたことや「人」が好きだった様子、「人」への優しさが伝わってきます。レニーから贈られたサイン入り写真はPMF1990を成功させた同志の証だったと想像を膨らませます。この絵はがきは募金者へのお礼状やご連絡に使う予定です。





PMFを応援する会の皆さま、こんにちは。
いつもご支援、ご協力をありがとうございます。

PMF組織委員会は、PMF開催期間以外は何をしているの？とよく聞かれます。会期は夏の1カ月間のみですが、年間を通じて音楽祭に向けた様々な準備を行っています。最近の仕事のほんの一部をご紹介しますと…

・PMF2016アカデミー オーディション審査終了

2016オーディションは1月14日に応募を締め切り、58カ国・地域から、前回は上回る1,067人の応募がありました。今夏、札幌でその音色を聴かせてくれるアカデミー生は、3月下旬にPMF公式ウェブサイトで発表します。

・チケット販売準備

PMFファンの皆さまにご満足いただけるように、前年の反省やご意見をもとに、チケットの発売時期や販売方法などを見直し、準備を進めています。

・アウトリーチコンサートの開催調整

市内各所でのアウトリーチコンサートは、これから開催が決まるものもあります。決定次第、ホームページなどでお知らせしますので、どうぞ楽しみに！

・ポスター、スケジュールパンフレット完成

この会報が皆さまのお手元に届く頃には、街中にPMF2016のポスターが貼り出され、スケジュールパンフレットもお手元でご覧いただけるはずです。



PMF2016 トピックス

【チケット発売日情報】

- ◆一般販売 5月1日(日)から
- ◆PMF2016フレンズ会員先行予約 4月10日(日)10時から
- ◆PMFオンラインサービス先行販売 4月24日(日)10時から

※詳細はPMF公式ウェブサイト (<http://www.pmf.or.jp/>) でご確認ください。

PMF組織委員会 (TEL 011-242-2211) までお問い合わせください。

【PMF2016の見どころ】

今年も引き続き、ワレリー・ゲルギエフが芸術監督を務めます。PMFオーケストラの音色にどのような変化が生まれるのか、ぜひご期待ください。また、初参加となる首席指揮者ジョン・アクセルロッドは、L.バーンスタインに学び、彼に関する著作もあるアメリカ出身の実力派指揮者です。今回、バーンスタインが創設したPMFへの参加を非常に名誉あることと、喜んで引き受けてくれました。アクセルロッドが指揮を務めるプログラムA・Bともに必聴です！

…現在もPMF組織委員会は、より一層素晴らしい音楽を皆さまにお届けできるよう、PMF2016に向けて全力で取り組んでいます。これからもPMFへの力強い応援をお願い申し上げます。

〈 編集後記 〉

PMF2016のスケジュールが発表になり、いつものことながらワクワク、ソワソワ！

チケットの発売が待ち遠しい限りです。

今年はどんなアカデミー生たちが札幌を目指して来てくれるのだろう、どんなストーリーが生まれるのだろう。

多くの札幌市民が温かい心を持って、世界のいろいろな国からやってくる若者たちを受け入れ、歓迎したいものです。札幌での夏の1ヶ月が彼らの将来にとってどんな力になるのか楽しみです。

わたしたち札幌の市民が世界平和を願ったレーニーの遺志を受け継ぎます！(M)



発行 「PMFを応援する会」

〒005-0854
札幌市南区常磐4条2丁目17-13
「カフェ・ディ・レーニー」内

FAX専用：011-827-5181

ホームページ
<http://pmf-support.main.jp/>

フェイスブック
www.facebook.com/much.love1990pmf.sapporo

印刷協力 株式会社マルシン